

果樹病虫害発生予察調査結果（4／25調査分）
（三条、加茂、田上地域）

4月25日に実施した予察調査結果についてお知らせいたします。

（共通）

- 有効積算温度によるふ化盛期は、クワコナカイガラムシで**5月4日頃**、ウメシロカイガラムシで**5月7日頃**、クワシロカイガラムシで**5月17日頃**です。今後の気象条件や園地状況により発生が早まる場合もありますので、早めに防除の準備を行いましょう。
- フェロモントラップによるナシヒメシンクイの誘殺数が多くなっています。越冬世代のピークは昨年より遅めで、第1世代幼虫の防除時期は**4月下旬～5月中旬**と予測されますので、丁寧な防除に努めましょう。特にモモ園地では誘殺数が多いので注意しましょう。

（ナシ）

調査地点ごとに200花葉そうおよび5新梢を調査しました。

- 日本ナシの多くの品種で、花の「がく」の黒変症状が散見されています。花腐細菌病が疑われますので、り病花を確認したら摘み取り、園外で処分しましょう。
- 一部で、黒星病り病葉が確認されています。5月中旬頃まで子のう胞子の飛散が続き、降雨で感染リスクが高まります。昨年多発した園地や湿気の多い園地は特に注意が必要です。通風の改善等にも留意しましょう。
- 今回調査でセイヨウナシ褐色斑点病は確認されませんでした。り病葉を確認したら摘み取り、園外で処分しましょう。

(モ モ)

調査地点ごとに100花および100葉そうを調査しました。

- 一部で、縮葉病り病葉が確認されています。花腐れ症状(灰星病)は確認されませんでした。開花期に降雨もあったことから、発病花を確認したら摘み取り、園外で処分しましょう。
- 一部で、せん孔細菌病春型枝病斑が確認されています。特に、樹の上部で多発すると直下の枝葉で被害が大きくなる恐れがあります。見えづらい場所ですが、丁寧に確認しましょう。また、風雨により拡散しますので、発病枝は切除し園外で処分しましょう。
- 一部で、コスカシバの虫ふん(フラス)が散見され、多数確認された樹もあります。フラスや食入した穴が確認された場合、周囲を金づちで叩く・切開して幼虫を潰す等早期に対処しましょう。

※ 薬剤防除は防除暦の散布時期ではなく、生育にあわせた対応をお願いします。

次回調査は5月10日(金)です。

担当 : 中越支所 果樹共済係
TEL : 0258-36-8105
FAX : 0258-34-8020